Kawasaki Medical School Hospital Cancer Center

川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.18 2014 夏号

大熊猫　撮影：本多啓介

- 臨床腫瘍科からのお知らせ
- 第11回高梁医師会・新見医師会 がん診療地域連携懇談会報告
- 第25回日本在宅医療学会開催報告

インフォメーション

- 第15回市民公開講座がんサロン
- 第10回Oncology Seminar

臨床腫瘍科からのお知らせ

臨床腫瘍科　医長　澤木　明

平成26年6月1日付で川崎医科大学病院臨床腫瘍科のスタッフに加えていただきました。

私は名古屋生まれで高校までは名古屋で過ごしておりましたが、鳥取大学で勉強いたしました。卒業後は名古屋に戻り、消化器がん化学療法を愛知県がんセンターで合計12年間勉強いたしました。がんセンターでは新薬の開発のための国際共同臨床試験に参加する機会に恵まれ、HER2陽性胃がんに対するトラスツズマブ治療、消化管間質腫瘍に対する3次治療薬であるレゴラフェニブ治療、神経内分泌腫瘍に対するスニチニブなどの新薬開発に関する臨床研究を行ってまいりました。今後も医師主導の臨床試験やメーカー主導の治験ともに積極的に参加し、がんの臨床研究に関与していきたいと考えております。学会・研究会が示す各種指針（ガイドライン）の数は年々増加しておりますし、新しい知見が数多く報告されています。これらの情報を基に社会的合意が得られるような科学的かつ倫理的な妥当性がある治療を実践するのが、腫瘍内科医の務めであると考えております。当科では消化器悪性腫瘍のがん薬物療法を中心に診療を行っておりますが、原発部位の特定が困難な腫瘍の薬物治療も積極的におこなってまいります。個別の患者様のご相談に限らず、一般的ながん薬物治療に関しましてもお気軽にご相談いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

第11回高梁医師会・新見医師会 がん診療地域連携懇談会報告

平成26年5月29日（木）高梁、6月11日（水）新見にお邪魔し、それぞれ第11回目となる「がん診療地域連携懇談会」を開催させていただきました。今回はがんの緩和ケアについて多職種で情報を共有し患者さんをサポートしていくことを目的に岡山県緩和ケア研修会のPEACEプログラムを参考にした内容で計画させていただきました。今後数回に分けて実施させていただく予定で、まず第1回目となる今回は「がん性疼痛の評価と治療」についての講義を行いました。プログラムの内容だけでなく実際の現場で困っている疼痛コントロールなど情報を共有し互いにアドバイスしながら第1回目を修了しました。今後はグループワークやロールプレイも取り入れながら行っていく予定です。

26.5.29高梁医師会懇談会

26.6.11新見医師会懇談会

第25回日本在宅医療学会開催報告

臨床腫瘍科　部長　山口　佳之

第25回日本在宅医療学会学術集会を去る平成26年5月24、25日（土日）の両日、倉敷アイビースクエアで開催させていただきましたのでご報告申し上げます。

2007年、がん対策基本法が施行され、緩和在宅ケアに注目が集まるなか、30年を超える癌治療の経験から、『緩和ケアはグラウンドゼロの寄り添う医療』『緩和ケアこそがんを克服する』『在宅は究極の緩和である』を信念として倉敷で活動して参りました。『緩和ケアフォーラムin岡山』という組織を立ち上げ、地域における多職種連携の確立を模索してまいりました。そのような活動が認められ、今回の会長指名につながったと振り返っております。

そこで、今回の会のテーマを『創ろう、地域はひとつのホスピタル―発信！我らが在宅連携―』とさせていただきました。在宅医療の成功には一病院だけでは解決できない諸問題があり、地域をひとつのホスピタルと捉えた体制創りが不可欠という理解から、全国の皆様の活動を学会で発信していただき、意見交換し、刺激し合い、この活動が全国的なうねりとなって参りますことを期待いたしました。

具体的な内容といたしましては、特別講演として、長寿社会文化協会理事長、服部メディカル研究所所長、服部万里子先生より、診療報酬の改訂に伴う在宅に向けた国の施策の解説と、今後はケアマネを中心とした地域活動が重要となることをご指摘いただきました。また、中国新聞文化部　平井敦子様より、メディアからみたいろいろな最期の過ごし方についてご講演いただきました。

ランチョン・イブニング・モーニング・外来化学療法・緩和・在宅ケアセミナーでは、在宅医療とがんをキーワードに、すべて教育講演として準備させていただきました。すなわち、抗がん剤治療の進歩、有害事象とその対策、訪問診療、在宅看取り、がん性疼痛とその制御、心のケア、PEGの問題、亜鉛欠乏、そして認知症についてです。しっかりと勉強していただくよい機会となったのではと述懐しております。

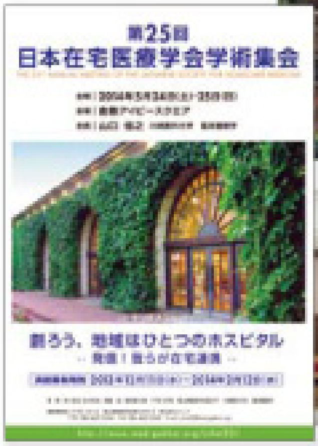
シンポジウムといたしましては、『集まる』『創る』『学ぶ』『育てる』の視点から、『地域活動』『ITの応用』『在宅医の教育』『在宅への障壁』をキーワードに企画をお願いいたしました。すなわち、シンポジウム1.『我らが在宅連携』では、尾道システムとしてご高名な片山医院

片山　壽先生の基調講演とともに、地域在宅連携の確立に向けた全国の活動を紹介・議論いただきました。倉敷での活動も私が代表して発表させていただきました。厚生労働省医政局　佐々木昌弘先生より追加発言として行政からのご講演もいただき、内容の濃い議論がなされました。シンポジウム2.『在宅連携のための情報共有システム―実現例と今後の課題―』では、岡山の山間部新見地区でテレビ電話を用いた診療モデルに携わっておられる太田隆正先生の基調講演とともに、在宅医療におけるITの応用を議論していただきました。シンポジウム3.『在宅医療の質向上を目指して～連携・教育・研究・地域活動の好循環サイクル～』では、在宅医をどう育てるか、これに関連する諸問題を議論いただきました。在宅医療学の確立、在宅医療の標準化などが議論されました。シンポジウム4.『本音で在宅医療を話そう～キュアとケア』では、急性期病院から在宅への連携における諸問題を議論していただきました。本学会に参加されないがん治療医にどうやって在宅の必要性を届けるか、重要な議論がなされました。

その他、要望課題として多職種的な話題を取り上げ、ワークショップとして応募多数の演題についてまとめさせていただきました。緩和在宅医療の確立、体制整備が求められる今、本学会の役割は大きいものがあります。日々の研究の成果を十分にご披露いただき、皆さまと一緒に情報共有できたと確信いたしております。

同時に、会では少しばかりの『癒し』の企画を用意させていただきました。まず、第25回の参加シンボル・バッジとして、倉敷の作家Heidiさんのかわいい作品『しあわせのたね』を参加者全員に漏れ無くプレゼントさせていただきました。『Le Bonheur est quelque chose qui se multiplie quand il se divise.　幸せはそれを分けようとした時に増えるものである』ひとつがふたつに、そしてたくさんに。ひとりの患者さんの笑顔がそばにいるご家族の笑顔に、そして寄り添うわれわれ医療スタッフたくさんの笑顔に、そんな思いを込めて準備させていただきました。大変、好評であったと自負しております。また、全員懇親会ではクロマチック・ハーモニカ　プロ奏者　南　里沙さんをお招きし、吸い込まれるようでまた力強いその音色に、みなさん、明日への英気をやしなっていただけたものと確信いたしております。

天候にも恵まれ、おかげさまで700名を超えるご参加をいただき、例年に劣らない会にしていただけたと顧みております。随所で熱心な議論がかわされ、会場の空気がひとつとなって、みるみる熱くなっていくことを感じました。実りある会にしていただきましたことに対し、ご尽力いただきました関係のみなさまに心より感謝申し上げ、学会主催報告とさせていただきます。ありがとうございました。



がんセンター活動予定

● 第15回市民公開講座がんサロン

日　時　平成26年9月13日（土）13:30～16:00

場　所　川崎医科大学　8階ラウンジ
（病院2階玄関からお入りください。）

テーマ　「がん治療中に知っておきたい栄養の話」

講演①「がん治療中の栄養のお話
　　　　―食事は心のエッセンス―」
川崎医科大学附属病院　栄養部　栄養主任　遠藤　陽子

講演②「がん治療にも大切な栄養のお話
　　　　―栄養は百薬の長―」
社会医療法人若弘会　若草第一病院　院長　山中　英治　先生

● 第10回Oncology Seminar

日　時　平成26年10月18日（土）13:30～16:00

場　所　川崎医科大学　校舎棟7階M702講義室
（病院2階玄関からお入りください。）

テーマ　化学療法看護について

お申込み・お問合わせ先

川崎医科大学附属病院　患者診療支援センター
〒701-0192　倉敷市松島577
TEL 086-462-1111（内線22612）
E-mail　renkei@med.kawasaki-m.ac.jp

駐車場　外来駐車場をご利用ください。
（サービス券をお渡しします。）

オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。
参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科（診断・核医学）・病院病理部合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

日時　第2・4月曜日　18:00～19:00
場所　9階中病棟　第2カンファレンス室

大腸癌化学療法カンファレンス

外科・内科・臨床腫瘍科・放射線科の医師・看護師・薬剤師など多職種からなる医療チームで、外来大腸悪性腫瘍に対する治療方針（化学・放射線療法プロトコール・手術介入など）の決定についてのカンファレンスを行います。院外の先生方や医療スタッフの皆さまもどうぞご参加ください。

日時　第1・3金曜日　17:30～19:00
場所　本館10階　通院治療センター

緩和ケアカンファレンス

毎週木曜日13：15から14階西カンファレンス室で緩和ケアチームのカンファレンスを行っております。

Case Conference

各診療科から症例を提示し、その診断と治療およびケアについて複数の診療科で、また医師・看護師のみならず広くコメディカルも参加して横断的かつ総合的に討論し勉強する症例検討会です。

日時　第2木曜日　18:00～19:00
場所　川崎医科大学　校舎棟7階M703講義室

Nutrition Support Team（NST）カンファレンス

毎週火曜日13:00から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。

川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL 086-462-1111（代表）
http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/

紹介患者さま受診予約窓口

■地域医療連携室
直通 TEL（086）464-1567
代表 TEL（086）462-1111（内線22611-22613）
直通FAX（086）464-1166
E-mail　renkei@med.kawasaki-m.ac.jp